

世界に広がるジャムズネットの活動



ジャムズネット・アジア設立会議：在タイ大使館 2013年

ジャムズネット・アジア 世話人 **吉田常孝**
(在タイ日本国大使館 医務官)

ジャムズネット東京 理事長 **仲本光一**
(外務省 診療所 所長)

コロンビア大学 医学部循環器内科学
教授 **本間俊一**
(ジャムズネット 代表)

※このコラムは筆者の個人的見解を述べたものであり、外務省の公式見解とは異なる

中核となる2つの啓発活動

「邦人医療支援ネットワーク (Japanese Medical Support Network)」、通称ジャムズネットは、当時の米国日本人医師会会長でコロンビア大学の**本間俊一**教授が呼びかけ、在ニューヨーク日本国総領事館が側面支援をすることで、2006年1月にニューヨーク (NY) で設立された。NYには、医療や福祉、教育、心理の分野で邦人コミュニティを支援する団体が多数存在していたが、連携した活動はしていなかった。そこで、米国日本人医師会を中心に既存の20団体が参加して活動がスタートした (現在は23団体が加盟)。

中核事業は医療や福祉に関する情報提供と啓発活動。海外在留邦人にとっての大きな課題は高齢化である。NYでは、早くからこの問題に取り組んでおり、NY日系人会は、05年4月に、総領事館支援の下で「邦人・日系人高齢者問題協議会」を設立した。在留邦人や日系人の高齢化を念頭に置き、その健康に寄与するための啓発を目的として、NY日系人会と同協議会、ジャムズネットの共催で、日本の敬老の日に合わせて07年9月に第1回シニアウィークを開催した。このNY日系人会との共催イベントは今年で第

9回目となり、毎年2000人以上が来場する大きなイベントとして成長している。また10年には、このシニアウィークの活動の1つとして、日本で厚生労働省支援の下で行われている「認知症サポーターキャラバン事業」を海外で初めて開催した。以後は、北米における同事業の拠点となり、認知症の啓発活動にも力を入れている。また09年からは、4月のNY日系人会によるサクラ祭りに合わせて、高齢者に限らない健康に関する啓発イベントを「サクラ・ヘルスフェア」として日系人会と共催している。このサクラ・ヘルスフェアも毎年2000人以上の来場者を迎え、今年で7回目となった。

ジャムズネット (NY) は、このような継続した2つの啓発活動を中心に、在留邦人の健康と福祉に貢献してきた。サブグループとして07年3月に「メンタルヘルス・ネットワーク」が、10年5月に「スペシャル・エデュケーション・ネットワーク」が結成され、NYにおける在留邦人の精神保健や特別支援教育に関する支援活動を強化した。これらの活動実績から、10年には米国のNPO法人として認可を受けた。11年3月からは、東日本大震災の支援事業を加えながら、来年1月には10年目の節目を迎える。